

菊川西中だより

校長室の窓

「目的」「目標」「手段」
をきちんと理解して
成果を挙げよう!



学校でも企業でもあるいは個人でも何かをやるうとする時には必ず「目標」を立てます。菊西中にも色々な目標がありますが、学校における最大の目標は、学校教育目標です。本校の学校教育目標は「自ら高め 礼儀正しく たくましく」です。この目標は平成12年度に当時の小川校長先生をはじめ、当時本校に勤務された先生たちの熱い思いで制定され、今年16年目を迎えます。新年を目前にし、「新しい年は〇〇な年にしよう」と思いをめぐらせている子どもたちも多いと思いますので、今日は「目的」「目標」「手段」の関係について書いてみようと思います。

私は30才を過ぎたばかりの頃、ある中学校で3年生の担任をしていました。私のクラスには不登校傾向のK君がいて、朝私が家まで迎えに行ったりクラスメイトが誘いに行ったり様々な努力をするも、状況は好転せず、休んだり来たりという状態が続いていました。そしてとうとう3学期になってしまい、私は何とかして残りの期間、K君を含めクラス全員で過ごしたいと考え「3学期、全員皆出席」という目標を決めました。そして、プログラム委員会(学級委員と班長の会合)で子どもたちに「私は中学校最後の学期をK君も一緒に思い出いっぱい終わりたい。だからこの目標を掲げたいけど、協力してくれないか」と呼びかけました。プログラム委員の子どもたちも「よし、やろう」と言うことで3学期がスタートしました。しかし1年で最も寒い1月、2月です。最悪の事態が発生しました。学級委員のNくんがインフルエンザにかかってしまったのです。朝教室に行くとき真っ赤な顔をしたN君が「先生、はやく出席とって!」といます。出席確認が終わるとN君は「熱が39度出ているので、早退します。」と言って帰宅しました。しかし、その翌日N君は学校を休み、とうとう「全員皆出席」はこの日終わりを迎えました。加えてこの無理がたたったN君が一週間寝込んでしまうというおまけ付きでした。

「全員皆出席」の取り組みの**目的**は「Kくんを含めた全員でクラスを締めくくりたい」でした。しかし、学級委員のNくんも私も「**全員皆出席**」することが**目的**のように感じてしまい、N君は「自分ひとりでも休むと『全員』じゃなくなる」と考えて、39度の熱を押しつけて登校するという暴挙に出してしまったのです。誰でも「〇〇したい」という目的で目標をきめます。この時「無理のないようにこの程度にしておくか」では伸びは有りません。しかし「あくまで〇〇」と**目標にこだわり**「何をしたいのか」という**目的がどこかへ行ってしまふ事も良く見かけます**。私の例で言うなら「K君を含めて最後の学期をクラス全員で過ごしたい」が「**目的**」であり、そのための手段として「全員皆出席」と言う「**目標**」を掲げたのでした。

しかし、『全員』という目標にこだわり、この目標が「目的」を成し遂げるための手段の一つであることを忘れてしまい、無理した結果1週間学級委員不在と言う結果を招いてしまいました。「**目標は達成できなかったけれど『目的』は達した**」と言うことがある事を私は学びました。もちろん全力で取り組む事を否定しているわけでは有りません。「目標を決めて、全力で取り組む、そして結果が出て反省したら、結果にはこだわらない」がベストだと思うのです。(文責 校長)